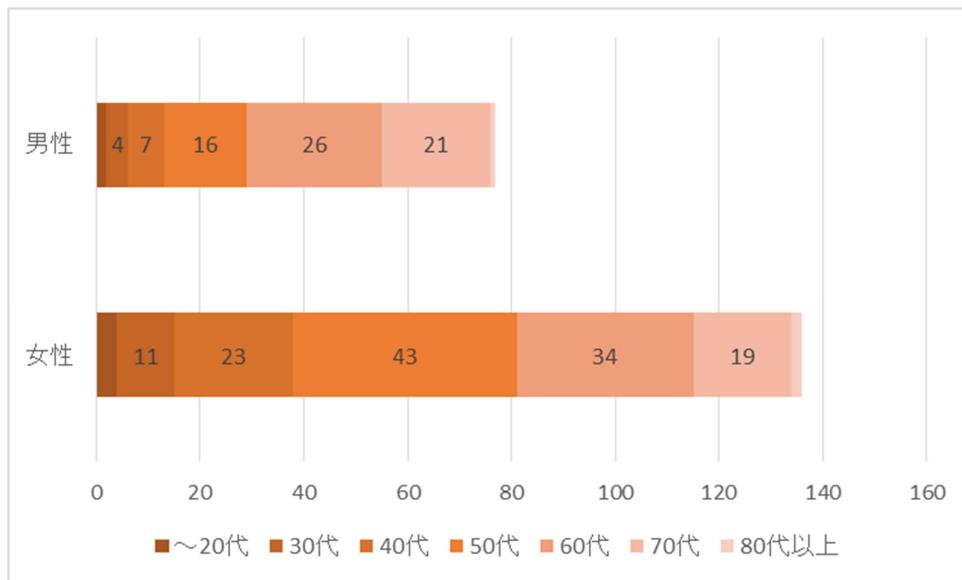


第4回認知症医療介護推進フォーラム アンケート結果

1. アンケート回答者数：221名

2. 回答者の性別、年齢構成（数字は人数）



* 性別、年齢層の無回答を除く、213名

- 男性77名（34.8%）、女性は137名（62.0%）、無回答（3.2%）と、女性が約3分の2を占めた。
- 年齢層は、50代（27.2%）と60代（27.6%）が半数以上を占めた。

3. 勤務先

	人数	割合
1. 特になし	61	27.6%
2. 医療機関	56	25.3%
3. 介護事業所	31	14.0%
4. 地域包括支援センター	11	5.0%
5. 行政	5	2.3%
6. その他	47	21.3%
7. 無回答	11	4.5%
計	221	100.0%

- 「特になし」が最も多く27.6%、次いで「医療機関」（25.3%）、「その他」（21.3%）が続いた。

4. 職業

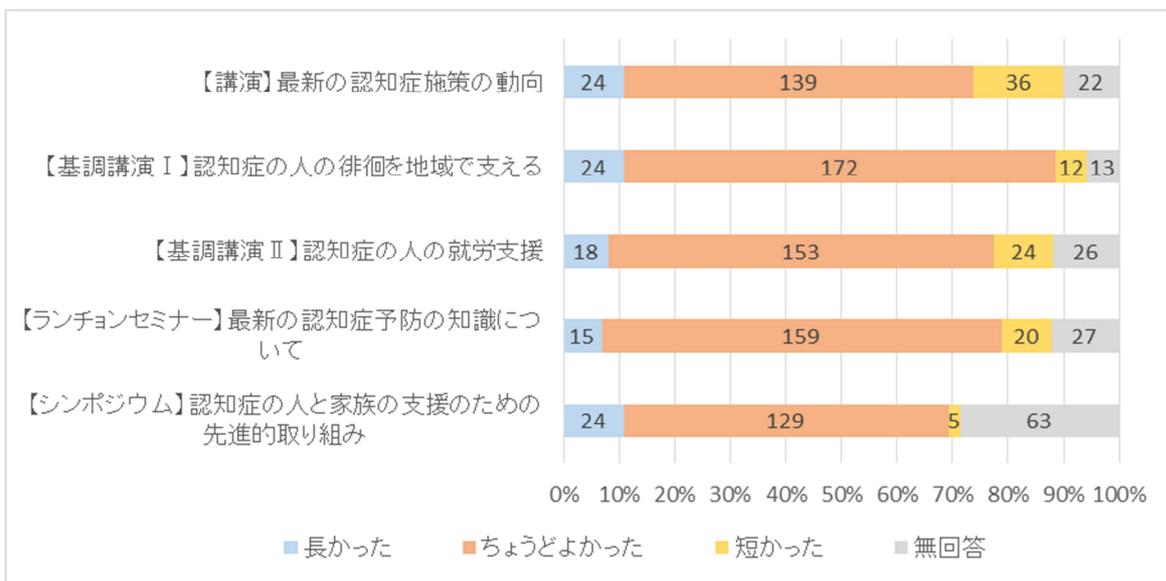
	人数	割合*
1. 特になし	46	20.8%
2. 医師／歯科医師	4	1.8%
3. 保健師／看護師	59	26.7%
4. 社会福祉士／精神保健福祉士	9	4.0%
5. 介護福祉士／介護職員	10	4.5%
6. 理学療法士／作業療法士	6	2.7%
7. 介護支援専門員	16	7.2%
8. 行政職員	2	1.0%
無回答	34	15.4%

*アンケート回答者（221名）を100%とした場合の割合。

「その他」と回答した者の職業：薬剤師、認知症ケア専門士、柔道整復師、臨床検査技師、鍼灸師、民生委員、団体職員、大学、学者、学生、教育機関、教員、大学職員、行政書士、司法書士、会社員、ふれあいカフェ運営責任者、オレンジリング会員、NPO、編集業、経営者、建築士

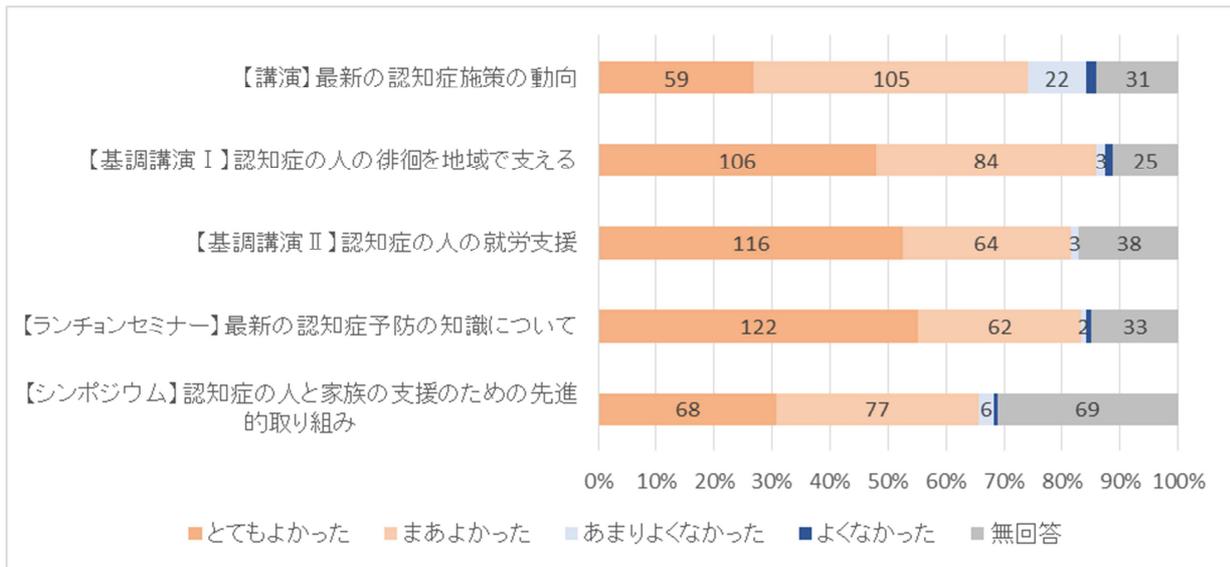
- 最も多かったのは「保健師／看護師」（26.7%）であった。

5. プログラムの時間配分について



- どのプログラムにおいても「ちょうどよかった」という回答が最も多かった。
- 午後のシンポジウムは、途中退席された方が多かったことから、無回答が多かったと考えられる。

6. プログラムの内容について



- 全体的に「とてもよかった」「まあよかった」が多かった。
- 午後のシンポジウムは途中退席された方が多かったことから、無回答が多かったと考えられる。

7. シンポジウムの知ったきっかけ

長寿の HP : 21 名、杉浦記念財団の HP : 6 名、その他の HP : 11 名、
 チラシ : 11 名、新聞広告 : 119 名、職場等からの紹介 : 27 名

8. 日頃認知症の人のケア／支援に関わっているか

	人数	割合
1. はい	155	70.1%
2. いいえ	53	24.0%
無回答	13	5.9%
計	221	100.0%

- 日頃認知症の人のケア／支援にかかわっている人が全体の 7 割を占めた。

【参加者からの意見・感想】

- ・ 今回のプログラムを参考に、今後、医療機関として、地域貢献出来る様取り組みをしていきたい。
- ・ 現在、特養で NS として業務についていますが、認知症の方々への対応に本日のセミナーに中でヒントを頂き、試してみたいと思います。
- ・ 教育を行うことで発症が低くできる→患者さんだけでなく家族にも教育・指導を行っていきたくと思った。
- ・ 認知症の人や家人の立場に沿った関わりをしなければ、と改めて再認識した。
- ・ 当事者ご本人のお話がお聞きできたのはとても良かったし勉強になりました。
- ・ 介ゴ認定者のためのデイサービスを運営されている BLG はすばらしいと思う。
- ・ 一般の人に分かりやすい説明でした。
- ・ 画面が小さく、文字が見えづらい。資料配付があればよかった。

- ・ 対象者が、今ひとつしぼられていない様な気がしました。
- ・ 奥さんの自分ごと、として受けとめてほしいと熱い思いが伝わった。
- ・ 普段、人とのつながりに気にとめること(自覚すること) はあまりないが、本フォーラムに参加し、周りの方の目かけ、人々とのつながり、関係者とのつながりの必要なこと改めて考えさせられました。
- ・ スライド資料がほしい (こんなりっぱな金をかけた資料は不要。その分を安い紙でよいがスライド資料がほしい。)
- ・ 社会とのかかわりが生きる喜びになる事を学び少しでも外に出るようにして行きたいと思いました。又、地域の活動には積極的に参加して行きたいと思います。
- ・ 医療介ゴの連携はもちろん大切だと思いますが、神経内科、老年科ではない若い医師たちにももっと認知症を理解してもらいたい。
- ・ 時間ごとにふさわしいテンポと内容でお話を聴くことができて良かった。
- ・ とても、解かりやすく、また就労支援のプログラムには、当事者の方のお話しや、それを支える方々の思いを聞く事ができ、日頃から、認知症の方に携わっていますが、また考えを新たにしたり、共感したり、とても実のあるお話しでした。
- ・ 中日新聞でフォーラムを知り、申し込みました。市民向けでわかりやすいのかと気軽に参加しましたが、内容が専門的で、大変勉強になりました。パワーポイントの内容が手元にあると、よいと思います。
- ・ 初めて知ることばかりで驚きました。学生で勉強の為に参加させていただいたのですが、今後の学習に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 認知症の支援はとても難しい。地域に寄って、色々の取り組みがされていて勉強になりました。仕事で認知症の方の支援をしていて困っている事例や介護拒否の強い方がみえて初心にかえって行なっていける力になりました。ありがとうございます。
- ・ 具体的な話が多く、大変参考になりました。
- ・ 認知症について親族に患者がいますので、具体的系統的に説明して頂き助かりました。
- ・ ありがとうございました。知らないより知っていた方が良い事がたくさんありますね。とても勉強になりました。
- ・ 10時スタートにして、終演を17時にした方が、遠方からでも、参加しやすいと思った。

など

以上

(案)

第5回認知症医療介護推進フォーラム
「意欲をもって地域で暮らすために」プログラム

日時：2018年2月18日(日) 9:30~15:30

場所：東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

主催：国立長寿医療研究センター 認知症医療介護推進会議

後援：厚生労働省、国立精神・神経医療研究センター、全国老人福祉施設協議会、全国老人保健施設協会、全日本病院協会、
日本医師会、日本介護支援専門員協会、日本介護福祉士会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本精神科病院協会、
日本認知症学会、日本認知症グループホーム協会、日本認知症ケア学会、日本慢性期医療協会、日本薬剤師会、日本老年医学会、
日本老年看護学会、日本老年精神医学会、認知症介護研究・研修センター、認知症の人と家族の会

(予定、法人名以下五十音順)

共催：杉浦記念財団 協賛：依頼中

時間	プログラム	演者名
9:30	開会挨拶	国立長寿医療研究センター 杉浦記念財団 理事長 鳥羽 研二 理事長 杉浦 昭子
	来賓挨拶	日本医師会 常任理事 鈴木 邦彦
10:00 ~ 10:30	講演 演者	最新の認知症施策の動向 厚生労働省老健局 室長 田中 規倫
10:45 ~ 12:15	シホヅルム 座長	(例)高齢者と自動車運転について 日本医師会 常任理事 鈴木 邦彦
		国際医療福祉大学大学院 教授 渡辺 俊介
	シホヅルム 座長	警察庁 室長 岡本 努
		国立長寿医療研究センター 部長 島田 裕之 日本自動車工業会 依頼中 日本認知症学会 依頼中
12:30 ~ 13:30	ラウンドテーブル 座長 演者	(例)認知症予防・治療の最新知識 協賛：依頼中 日本認知症学会 理事長 秋山 治彦
13:50 ~ 15:20	シホヅルム 座長 座長	(例)オレンジプランの今後の発展のために ～認知症に理解のあるまちづくり～ 日本看護協会 常任理事 荒木 暁子
		筑波大学 教授 水上 勝義
	シホヅルム 座長	◇ 当事者の立場から 仙台市オレンジドア実行委員会 代表 丹野 智文
		◇ 家族、介護者の立場から、ADI国際会議をふまえ 認知症の人と家族の会 代表理事 鈴木 森夫
		◇ 初期集中支援について 国立長寿医療研究センター 副院長 鷺見 幸彦
		◇ 初期の段階からのまちづくり 鎌倉市榎さくらコミュニティアサーブス 代表取締役 稲田 秀樹
	◇ 海外における認知症にやさしいまちづくりの取り組み 国立長寿医療研究センター 室長 堀部 賢太郎	
15:20	閉会挨拶	

注：平成29年7月26日時点のプログラム案
ご所属名は法人名以下を記載